



被災地にうず高く積み上げられたがれき=宮城県女川町で12年3月8日撮影



地震発生時刻に母親が発見された場所で手を合わせた後、遺影を手にかわいらしい表情を見せる少女。宮城県気仙沼市で同3月11日撮影



ハウス内でモモの花に授粉作業をする夫婦。原発事故で失った信頼は大きい。「農業が続けられるだけ幸せ」と=福島市で同3月9日撮影

東日本大震災から1年

毎日希望奨学金 156人に給付

「被災された方々の中には、今も悲しみに暮れている方がたくさんいます。人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることはつらいことです。日本が一つになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じます。日本中に届けましょう。感動、勇気、そして笑顔を見せましょう、日本の底力、絆を…」

2012年3月21日、第84回選抜高校野球大会の開会式。宮城県石巻工業高校野球部主将、阿部翔人さんが述べた選手宣誓の一節です。多くの日本人の気持ちを代弁したような宣誓は感動の輪を広げました。

3・11以降、毎日新聞東京・大阪・西部の3社会事業団には皆さまから東日本大震災救援金が続々と寄せられました。1年が経過した12年5月までに、9億9626万6655

円を日本赤十字社と岩手、宮城、福島県の県対策本部に寄託させていただきました。救援金は2012年9月末まで受け付けます。

毎日新聞社と3事業団は2011年5月、「毎日希望奨学金」を創設しました。12年4月までに皆さまから寄せられた奨学金へのご寄付は約3億5千万円にのぼります。これを原資に、保護者が死亡または行方不明となった高校生、高等専門学校生、短大生、大学生、専修学校生を対象に、学業継続に役立ててもらおうと、1人月額2万円を在学校の最短卒業年度まで支

給するものです。返済は不要です。ほかの奨学金との併用もできます。

初年度は申請のあった156人(高校生130人、大学生8人、専修学校生18人)全員に、11年4月にさかのぼって支給。12年度も支給が始まりました。

毎日新聞東京社会事業団 公益財団法人に

毎日新聞東京社会事業団(朝比奈豊理事長)は内閣府の認定を受け、11年12月1日、財団法人から公益財団法人に移行しました。

当事業団は1931(昭和6)年4月に財団法人の認可を受け、80年にわたり皆さまに支えられ、社会福祉事業のほか、小児がん征圧事業、海外難民救援事業、国内外の災害救援事業に取り組んでまいりました。

公益財団法人は事業に公益性が求められる一方、特定公益増進法人に該当し、寄付された方が税制上の優遇措置を受けられます。確定申告の際、本事業団発行の領収証を添付してください。

毎日希望奨学金

毎日希望奨学金の趣旨に賛同する声は日増しに高まりをみせました。「目的がはっきりしていて寄付しやすい」「子どもたちの将来に貢献できてうれしい」との声が寄せられています。

◇由紀さおりさんが希望奨学金を応援 ……………

ミュージシャンからも協力の申し出が相次ぎました。由紀さおりさんは、海外公演からの帰る飛行機の中で、毎日希望奨学金の記事が目にとまりました。「ぜひ遺児のために」と、コンサートのテーマを「希望奨学金」に決め、11年8月1日、チャリティーコンサート「あしたへ」を東京都千代田区の国際フォーラムで開きました。終演後、由紀さんみずから募金箱を手にロビーに立ち、募金を呼び掛けたのです。由紀さんは6月にも同じ会場でコンサートを開く計画です。



コンサート終演後、寄付を呼びかける由紀さおりさん(右)

◇谷村さん、石井さんが「風の子守歌プロジェクト」 ……………



「風の子守歌～あしたの君へ」を熱唱する谷村新司さん(左)と石井竜也さん

12年3月にはシンガー・ソングライターの谷村新司さんと石井竜也さんがCD「風の子守歌～あしたの君へ～」を共作。その印税すべてを希望奨学金に寄付する「風の子守歌プロジェクト」を立ち上げたのです。

「子供たちが将来、この国に住めなくなるかもしれない。僕たちはどうしたらいいのでしょうか」。福島県に隣接する茨城県の実家が被災した石井さんはある日、谷村さんに、こう語りかけます。「僕たちにできることは、歌をつくることだよ」。こう話す谷村さんの言葉に「俺に曲を書かせてください」と石井さんは申し出ました。

2月7日、プロジェクトの発表会が東京でありました。「がんばろうと鼓舞するのではなく、そっと背中に手を添えるような曲です」。石井さんはこう解説しました。

奨学生から感謝の声

風の子守歌プロジェクト発表会場には、希望奨学金を受給している石巻専修大2年の勝又友章さん(20)も招かれました。父を亡くし、大学の学費減免措置と、毎日希望奨学金で学業を継続し、理科の教員免許取得を目指しています。「ミュージシャンの方々にも支援していただき感謝しています。震災後は大学をやめることも考えましたが、与えられたチャンスを生かし、勉学に励みます」と勝又さん。

私立岩手女子高校3年の里館麻鈴さんからは「母と二人で新生活を始め、無事進級できました。

応援してくださる全国の皆様のおかげです」との手紙をいただきました。水産加工の仕事に津波の犠牲となった父と看護師になる約束をし、5年制の看護科がある同校に進んだ里館さん。震災後、避難所での看護師の活躍ぶりを見聞きして「みんなに頼られる看護師になる」という気持ちがいつそう強くなったそうです。



毎日希望奨学金を受給している勝又さん

ご寄付の方法

◇毎日希望奨学金

- 郵便振替 毎日新聞東京社会事業団(00120・0・76498)。「奨学金」と明記してください。
- 現金書留 〒100—8051 東京都千代田区一ツ橋1の1、毎日新聞東京社会事業団「奨学金」係。
- 銀行振り込み 三菱東京UFJ銀行東京営業部(普通0422292)。口座名は毎日新聞東京社会事業団希望奨学金。

◇東日本大震災救援金

郵便振替、現金書留の送り先は希望奨学金と同じですが、「東日本大震災救援金」と明記してください。銀行振り込みは、三菱東京UFJ銀行東京営業部(普通0322122)。口座名は毎日新聞東京社会事業団震災救援金。

※振込手数料はご負担願います。毎日新聞の地域面で紹介しますので、匿名をご希望の方は「匿名希望」と明記してください。銀行振り込みの方で領収書や紙面掲載をご希望の方は、その旨を明記し住所、氏名、電話番号を書き、振込用紙の写しを添えて郵送かファクス(03・3213・6744)で当事業団へお送りください。



海外難民 救援キャンペーン

独立の喜びが届かない南スーダン——毎日新聞社と毎日新聞東京社会事業団は2012年2月から3月にかけて、内戦の末、昨年7月にアフリカで独立国となった「世界で最も新しい国」南スーダンに取材チームを送りました。独立後も紛争はやまず、首都の病院には負傷した人々が運び込まれています。戦災、病魔、栄養失調。7人に1人の子どもが5歳の誕生日を迎えることができないといわれます。3月18日から5回にわたり毎日新聞に「ゼロからの出発」とのタイトルでレポートを連載し、海外難民救援金を募りました。

2011年度の海外難民救援金は国連機関やNGOなど別表の団体に贈りました。贈呈額は合計895万円です。これまでの贈呈総額は15億6700万円余となりました。



4歳の女兒は栄養失調で手足がむくんでいる。母親に抱かれると、穏やかな表情を見せた



内戦時代に埋められた無数の地雷が子どもたちを傷つけている



難民キャンプで弟や妹の面倒を見る少女(10)＝中央奥。足を負傷している妹(左手前)も、弟の世話を続けていた

2011年度 海外難民救援金贈呈団体 (順不同)

- 日本ユニセフ協会** すべての子どもたちが健康に、平和な世界で暮らせるようにと政治危機や紛争などで苦難を強いられている人々、とりわけ女性と子供に対して医療、食糧などの支援や教育の普及支援を実施している。
- 国連UNHCR協会** 世界では3千万人もが難民や国内避難民になり、困難な生活を強いられている。こうした難民を保護し、食糧支援、自立支援や子供の教育支援をしている。
- 国連世界食糧計画WFP協会** 世界では飢餓や病気で毎日1万4千人もの子供が命を落としている。約80カ国において8600万人に330万トンの食糧支援をしている。
- スリランカ子供基金ハウラ** スリランカの子供たちのために、幼稚園、職業訓練所、孤児院の建設と小～大学生の一部に奨学金を授与。
- AMDA** 世界各地の自然災害発生地で緊急医療活動をしている。ネパール子ども病院への医師、看護師の派遣、医薬品、医療機器の支援をしている。
- NGOアフリカ友の会** 中央アフリカ共和国でエイズの治療と感染拡大防止に取り組んでいる。
- 幼い難民を考える会** 復興を目指すカンボジアで子どもたちが安心して暮らせる環境づくりと女性の自立支援活動に取り組んでいる。
- 日本紛争予防センター** 南スーダン、ソマリアなどで、政府職員に対し紛争予防、平和構築の研修を実施。貧困層の子どもや若者の職業訓練にもあたっている。
- シェア(国際保健協力市民の会)** タイ東北部のケマラートでエイズの予防教育やキャンペーンを展開。差別と偏見のない村づくり活動をしている。
- JEN** スーダンやアフガニスタンなど紛争や自然災害で厳しい状況にある地域で給水設備や衛生施設、学校の建設に取り組んでいる。
- シャンティ国際ボランティア会** カンボジアやタイで子どもたちに人材育成活動や学校建設活動に取り組んでいる。
- 全国社会福祉協議会** アジア諸国の孤児や貧しい人々への支援活動を実施している。
- マイシャ・ヤラハ基金** ケニアの貧しい子ども達への給食や医療費を支援。奨学金も出している。
- AAR(難民を助ける会)** カンボジアやアンゴラ、スーダンなどで未だに埋まっている地雷の除去や地雷回避教育、地域保健医療に取り組んでいる。
- JVC(日本国際ボランティアセンター)** パレスチナやスーダンなどで医療、食糧支援活動を実施。ラオスや南アフリカなどでは自然農業による地域開発を支援している。
- バーンロムサイ** タイのチェンマイ近郊で、エイズで親を亡くした子や母子感染している子どもたちのための生活施設を運営している。
- ピースウィンズ・ジャパン** アフガニスタン北部の干ばつ地域で飲料水や農業用水の確保、水資源の管理・活用のための調査活動をしている。
- ベシャワール会** パキスタンとアフガニスタンに診療所を開設し、アフガニスタン難民に医療支援を実施。緑化事業として灌漑水路の建設や井戸の掘削に取り組んでいる。
- マハム二母子寮** 独立後間もないバングラデシュで日本人僧侶により生活に苦しむ未亡人と子どもたちの生活・就学支援の母子寮が作られた。現在も約100人の子どもが生活し、学校に通っている。
- 緑のサヘル** アフリカ・チャドとブルキナファソで緑が急速に失われている地域の砂漠化防止のための植林事業を実施し、住民が定住できる環境づくりに取り組んでいる。

ワールド・ビジョン・ジャパン アジアやアフリカで性的搾取を受けたり、危険な場所で働き、路上生活をする子どもたち、障害のために差別される子どもたち、難民キャンプで暮らす子どもたちへの支援活動をしている。

シエラレオネフレンズ アフリカ・シエラレオネにおいて、将来を担う子どもたちへの学校教育や給食を支援している。

ネパール・ヨードを支える会 ネパール・ヒマラヤ山麓の農村地帯の風土病である「ヨード欠乏症」対策に取り組む。

石田勝子を励ます会 コンゴ民主共和国ニヤンクンデ福音医療センターで活動する石田勝子さんを支援している。

難民支援協会 様々な理由から自分の生命を守るために自国から避難して日本にのがれて来た人々のための支援活動をしている。

総額 ¥19,400,000円

第55回

手足の不自由な 子どものキャンプ

55回目となる手足の不自由な子どものキャンプ(当事業団と日本肢体不自由児協会など主催)は2011年8月14日から19日までの5泊6日、山梨県のYMC A山中湖センターで開かれました。

ヒューン……ペットボトルのロケットが木立の間をすると上昇すると、子どもたちから歓声があがりました。たどたどしい手で包丁を握り、ぎょうざの具を刻む女の子。

Tシャツに気ままな色で落書きする男の子。期間中、安全性に留意したさまざまなプログラムが用意されました。キャンプファイヤー、野外調理、ボート遊び、花火大会、プールでの水遊び。

参加したのは、首都圏に住む障がいを持った小学3年生から高校3年生までのキャンパー44人(男20人、女24人)。子どもたちをサポートする大学生や社会人のキャンプボランティア32人、その他のスタッフと医師、看護師など約42人の総勢118人余りが参加しました。

調理メニューは豊富です。定番のカレーライスのほか、ぎょうざ、パスタ、プリンも登場し、作る喜び、一緒に食べる楽しさを味わっていました。

キャンプ最終学年となる高校3年生のために、模擬卒業式も開きました。在校生役の高2以下のキャンパーからメッセージ付き紙飛行機を手渡されると、高3キャンパーは目をうるませています。



朝の集いは毎日、
キャンプの旗を掲げる



ラケットをバットに
野球を楽しむ



高3キャンパーの模擬卒業式で、後輩
が手作りの紙飛行機をプレゼント



最後の夜、楽しかった日々
を振り返るキャンプファイヤー

後半の2泊3日は前年に続いて、チャレンジキャンプを実施しました。外泊したことのない障がい児がいきなり5泊のキャンプでは不安がいっぱい。そこでキャンプの楽しさをまず知ってもらう狙いです。

このキャンプを支えてくださった多くのみなさまに深く感謝いたします。

55回の節目にあたるこの年、毎日新聞のカメラマンがキャンプ場に4日間滞在し、子どもたちの姿をカメラに収めました。11年8月25日付の夕刊では左のような写真特集を組んでくれました。キャンパーとボランティアが楽しそうに過ごしている様子がよくわかります。近年、そのボランティア、とりわけ男子の希望者が減っているのが悩みの種です。緑豊かな環境で子どもたちの成長が実感できます。お金ではない心の報酬が得られるキャンプボランティアをご希望の方は事務局(03-5995-4514)へご連絡ください。



母の日・父の日 募金キャンペーン

交通事故、災害、病気……親を突然亡くした子どもたちは、さまざまな困難に突き当たります。「プレゼントをあげる親がもういない」。こんな読者の声をきっかけに、2005年にスタートした「母の日・父の日募金キャンペーン」。11年度に東京・大阪・西部の毎日新聞社会事業団に寄せられたご寄付は108万円余になりました。半額を「あしなが育英会」に、半額を以下の団体に贈呈しました。
交通遺児等を支援する会▽3 keys▽児童虐待防止協会▽自立援助ホーム「かんらん舎」



サンリオビューロランドで、キャラクターたちと食事を楽しむ子どもたち=交通遺児等を支援する会提供

そり滑り、雪だるま…楽しかった

第23回

雪と遊ぼう! 親と子の療育キャンプ

「雪と遊ぼう!親と子の療育キャンプ」は、新潟県南魚沼市の八海山麓スキー場を会場に12年1月7日から9日までの2泊3日の日程で実施しました。首都圏の肢体不自由児と、その親たちに雪遊びの楽しさを体験してもらい、子供たちは集

団生活を通じて協調性や自立心を養い、親たちは医師ら専門家を交えて交流し療育について学んでもらう趣旨で開催しています。



杵をかわるがわる
持ってお餅つき

当事業団とNHK厚生文化事業団、日本肢体不自由児協会の3者が主催し、1990年から開始したこのキャンプは今年で23回目となりました。手足の不自由な小学生25人とその保護者24人、支援するボランティアリーダー、医師・看護師らスタッフも含め総勢107人が参加しました。

ゲレンデでのそり滑り。スピードも出て思わず歓声があがります。雪合戦をしたり、ゲレンデを転がって楽しむ子どもたち。お

父さん、お母さんは力を合わせて高さ2メー

トルのかまくらを作りました。二日目の餅つき大会ではかわるがわる杵を持ち、お餅つき。三日目はグループごとに雪像をつくりました。子どもたちは素晴らしい思い出を深く刻んだことでしょう。保護者が子どもの世話から解放されることも、このキャンプの特徴です。ボラン



ボランティアのお兄さんと楽しそうにそり遊び

ティアリーダーのみなさんの献身的努力に支えられていることはいうまでもありませんが、南魚沼市や駅、スキー場、宿泊施設の方々にも大変お世話になりました。お礼申し上げます。

バスケットボール
や
百人一首 など

児童養護施設へのプレゼント 227カ所に

家庭の事情でクリスマスやお正月を児童養護施設で迎える子どもたちのために、当事業団は東日本の民間児童養護施設227カ所に恒例のクリスマスプレゼント贈らせていただきました。皆さまから寄せられた歳末助け合い募金を充てています。

両親の離婚や虐待などで養護施設に保護される子どもたちが増えています。多くの施設では定員枠を増やしたり、施設の拡充などで対応していますが、入所待ちの子どもたちがいるのが現状です。今回のプレゼントは障がい者が働いている作業所で作った輪投げセットと木製釣りセットのほか、バスケット

ボール、バトミントン、子供用テニス、フリスビーなどのスポーツ用具のほか、「日本古来の遊びを教えたい」とのリクエストにこたえて、たこ、百人一首、竹とんぼと紙風船セット、福笑いなども入れました。

施設からは「正月に家に帰れない子どもが多いので助かります」といったお礼状が届いています。子

どもたちからもサンタのイラスト入りで「おもちゃたくさんありがとう」といったクリスマスカードや手紙、色紙が届きました。

当事業団はこれからも、こうした子どもたちのささやかな力になりたいと考えています。



スポーツ遊具や玩具をプレゼント



子供たちから送られてきた手紙やクリスマスカード

第41回 毎日社会福祉顕彰 社会福祉の発展・向上に貢献

社会福祉の向上に貢献した個人、団体を顕彰する2011年度・第41回毎日社会福祉顕彰(毎日新聞社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援)の贈呈式が10月3日、東京都千代田区の毎日新聞東京本社で開かれました。

受賞したのは、東京都の特定非営利活動法人「きぼうのいえ」、石川県の社会福祉法人「佛子(ぶっし)園」、大阪市の社会福祉法人「今川社会福祉協議会ボランティア部」の3団体です。朝比奈豊・毎日新聞社会事業団理事長(毎日新聞社社長)が代表に賞牌(しょうはい)と賞金100万円を贈りました。

第41回 毎日社会福祉顕彰贈呈式



社会福祉顕彰を受賞した左から山本雅基さん、雄谷良成さん、澤田博子さん

NPO法人 きぼうのいえ

(山本 雅基理事長 東京都台東区)

簡易宿泊所が立ち並び「ドヤ街」と呼ばれる東京・山谷で02年、末期がんなどの重病を抱える人たちに人間らしい余生を送ってもらおうと、ホスピスケア施設「きぼうのいえ」を開所。130人近くの最期を看取ってきました。08年には長野県伊那市にお墓を作り、施設で亡くなった身寄りのない人たちの遺骨を納めています。

社会福祉法人 佛子園

(雄谷 良成理事長 石川県白山市)

祖父が石川県白山市に設立した障がい児・者の福祉施設を94年に引き継ぎました。奥能登地方で人気の地ビールレストラン「日本海倶楽部」をはじめ、外食店や弁当宅配店などを県内で複数経営する起業型福祉施設。障がい者の働く場を創出し、利益が上がれば昇給して還元しています。施設には、カフェや居酒屋もあり、交流拠点にもなっています。

今川社会福祉協議会ボランティア部

(澤田 博子部長 大阪市東住吉区)

独居のお年寄りや高齢夫婦ら100人以上の家庭訪問先を抱え、地域の隅々まで見守るボランティア活動を約30年続けています。モットーは「みんなで楽しく、少しずつ」。昔の遊びを地元の小学生に教える交流学习を開いたり、1700冊をそろえた文庫を開設するなど、約150人のメンバーがアイデアを出し合いサービスを広げてきました。

陶芸で社会福祉に貢献

アマチュア陶芸団体「日本陶芸倶楽部」(児玉裕司理事長、東京都渋谷区)は毎年5月に東京・日本橋の三越本店美術特選画廊で会員チャリティー作品発表展(同倶楽部、当事業団など主催)を開き、収益金を当事業団などに寄託いただいています。さらに、年2回、障害者を対象としたチャリティー陶芸教室を開き、社会福祉に貢献しておられます。

会員チャリティー作品発表展

第44回チャリティー作品発表展は2011年5月25～30日に開催し、会員314人が制作した彩り豊かな作品627点が展示されました。純益から当事業団の社会福祉基金に203万4336円が寄託されたほか、100万円を毎日希望奨学金に寄託していただきました。これまでの同倶楽部からの寄付総額は1億600万円余となりました。



会員の力作が並んだ作品展会場

チャリティー陶芸教室

「陶芸を通じて社会福祉に貢献したい」との思いから、毎年、同倶楽部は障害者を対象とした陶芸教室を開いています。11年8月31日、9月1日に文京区の障害者通所施設「文京えんじゅの会 だるまルーム(身体障害者)」の10人を東京・原宿の工房に招待し、急須の絵付けを楽しみました。2012年2月29日には「同会 つつじルーム(知的障害者)」に出張し、作陶教室を開きました。19人の参加者は小皿にチャレンジし、創作の喜びを味わっていました。



作陶の楽しさに笑顔がこぼれる

第16次小児がん征圧募金 960万円を贈呈



毎日新聞のキャンペーン「生きる」に寄せられた「小児がん征圧募金」の第16次分960万円を、小児がんや難病と闘う子どもたちへの支援や研究に取り組む全国20団体に贈りました。これまでの贈呈総額は2億4435万円となりました。

キャンペーンには多くのアーティストにご協力いただきました。恒例となりました森山良子さんのチャ

リティコンサートは2011年6月、皇后様をお迎えして開きました。会場を埋めた約2000人を前に、森山さんはデビュー曲「この広い野原いっぱい」やヒット曲「禁じられた恋」などを披露。共演した清水ミチコさんとともに子どもたちが合唱し、会場は一つになりました。



コンサートで手を振って声援に応える森山良子さんら出演者と子どもたち

女優の竹下景子さんのチャリティー公演「ごえんなこんさあと」は11月に三重県伊勢市と東京都渋谷区で開きました。「地方から発信し、闘病家族を励ましたい」と、08年から竹下さんの故郷・名古屋からスタートした活動です。聴衆は音楽や詩の朗読に心を癒されました。

12月には「生きる～2011Xmas若い命を支えるコンサート」を横浜市で開催しました。昨年のジュネーブ国際音楽コンクールで優勝したピアニストの萩原麻未さんらが演奏しました。

贈呈先は次の通り。(順不同)

子どもたちから花束を贈られ、ステージ上で笑顔を見せる「2011Xmas若い命を支えるコンサート」の出演者

そらぶちキッズキャンプ▽バンダハウスを育てる会▽ファミリーハウス▽スマイルオブキッズ▽がんの子供を守る会▽難病のこども支援全国ネットワーク▽白血病研究基金を育てる会▽日本さい帯血バンクネットワーク▽東京臍帯血バンク▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽近畿小児がん研究会▽京大病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽日本クリニックラウン協会▽チャイルド・ケモ・ハウス▽京都ファミリーハウス▽あいち骨髄バンクを支援する会▽「にこにこスマイルキャンプin九州」実行委員会▽久留米大学病院小児科親の会「木曜会」▽福岡ファミリーハウス▽九大病院小児科ボランティア「ゆめりんご」

アーティストが募金に協力

小児がん征圧募金にご協力いただいたアーティスト。

【2011年】

9月 2日 平野緑城コンサート

(東京オペラシティ)

10月 1日 清水康子「天使の泉」コンサート

(神戸酒心館ホール)

【2012年】

1月 7日 細坪基佳コンサート

(東京・日本青年館大ホール)



「ごえんなこんさあと」で演奏を終え、花束を受け取る笥千佳子さん(左)と竹下景子さん(右端)



慶應大学医学部などの4サークル
地域医療研究・実習への助成

大学医学部、医科大学の学生研究サークルが主に夏休みを利用して地域医療研究や実習を目的に訪問診療、保健指導、介護施設実習をするボランティア活動に対し、11年度も四つの大学のサークルに助成しました。高齢化が進み、地域医療のニーズは高まっています。学生たちの地域医療への認識が高まることを期待し、支援を続けています。

▽慶應義塾大学医学部医事振興会

11年8月14日から20日まで、山梨県甲州市で学生80人と医師・看護婦11人が訪問診療、看護、介護の実習のほか、障害児への健康指導を実施しました。

▽東京慈恵会医大疫学研究会

11年10月、茨城県常陸太田市で医師6人、学生12人が参加し、地域の住民を対象に保健指導と検診データの分析をしました。

▽東京女子医大地域保健研究会

11年8月15日から17日まで、学生12人が新潟県南魚沼市の医療社団法人「萌気会」の施設での看護、介護実習を通じ、地域保健、医療の知識を養いました。

▽松本歯科大学地域医療研究会

年間を通して歯科医師と学生が各7人前後で長野県内の重度障害者施設など

を訪問し、歯の健康診断、予防処置、簡単な治療をしています。



住民の歯の検診をする松本歯科大生

第35回 高齢社会に生きる
ボランティア実践講座

高齢社会を支えるボランティア活動のあり方を学ぶこの講座は、11年11月15日から5回開かれ、延べ約70人が受講しました。講座では「地域福祉とボランティア」と題した大学教授の講演のほか、地域で活動しているグループの活動報告や認知症についての講座がありました。

その他の主催・助成事業

当事業団は、2011年度も社会福祉のさまざまな分野で活動しました。その他の主催事業と後援・助成事業は次の通りです。

■その他の主催事業

- ◇第80回全国盲学校弁論大会
- ◇第48回点字毎日文化賞
- ◇声の点字毎日の製作、寄贈

■後援・助成事業

【東京ヘレン・ケラー協会への助成】

- ◇点字図書館への助成
- ◇ヘレン・ケラー学院事業への助成
- ◇ヘレン・ケラー記念音楽コンクールへの助成
- ◇海外盲人交流事業への助成

【障害者福祉事業】

- ◇わらじの会夏合宿への助成
- ◇第36回わたぼうし音楽祭の後援と助成
- ◇第30回肢体不自由児・者の美術展の後援と助成
- ◇第5回全国聾社会人野球TDリーグ大会の後援と賞品贈呈
- ◇第60回関東聾学校野球大会・卓球大会の後援と助成
- ◇第22回日本ブラインドテニス大会の後援と助成

【児童福祉事業】

- ◇平成23年度江戸っ子杯の共催と助成
- ◇交通遺児等を支援する会への助成

【その他の社会福祉事業】

- ◇第29回福祉囲碁東京大会の後援と参加賞贈呈
- ◇いのちの電話への助成
- ◇路上生活者への支援
- ◇アルコール依存症者の回復支援
- ◇非正規雇用労働者らへの支援



「いのちの電話」には年間3万件の相談が寄せられます。1年半の研修を受けたボランティアが相談にあっています。

ご寄付の方法について

社会福祉寄金、海外難民救援金、小児がん征圧募金は年間を通して受けています。当事業団へのご寄付の方法は以下の通りです。

●郵便局でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票（振替用紙）に金額、住所・氏名などの必要事項をご記入のうえ、お振り込みください。送料無料の払込取扱票（振替用紙）をご希望の方は当事業団にご請求ください。

【口座番号】00120-0-76498

【加入者（送り先）】毎日新聞東京社会事業団

※「寄付名」を通信欄に必ずお書きください。
※金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきます。匿名を希望される方は通信欄に「匿名」とお書きください。

●現金書留でも受けつけています。

●お問い合わせ先

毎日新聞東京社会事業団

〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
電話＝03-3213-2674
FAX＝03-3213-6744
E-Mail＝mai-swf@fine.ocn.ne.jp
ホームページ＝http://www.mainichi.co.jp/shakaijigyo/

書き損じのハガキ・未使用の切手を寄付してください

宛名を間違えたりして使えなくなったハガキやあまった年賀ハガキ、引き出しに眠ったままの未使用の切手を寄付してください。書き損じのハガキや未使用の切手は、郵便局で手数料を差し引いて、新しいハガキや切手に交換してもらいま

す。毎日新聞東京社会事業団では、通信用として使わせていただきますが、通信費が節約できた分を社会福祉事業に活用させていただきます。

個人情報について

当事業団へのご寄付に際して、知り得た皆様の個人情報は、当事業団からの領収証、お知らせなどの送付や問い合わせなどに使用させていただきます。それ以外には承諾なしに使用いたしません。